

噴火湾環境情報 NO.2

2016/12/5

湾内水温, 平年よりも低め!!

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当: 西田, 渡野 邊

2016年11月30~12月1日にかけて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。湾内の水温は10m, 30m, 50mともに8~9°Cで、それぞれ平年よりも約1°C低くなっています(図1)。一方湾外の水温は、湾内のそれよりも若干高く10~12°Cになっています。湾内、湾外ともに各層の水温はほぼ同じですが、これは冬季の海面冷却により海水が鉛直的に混合しているためです。

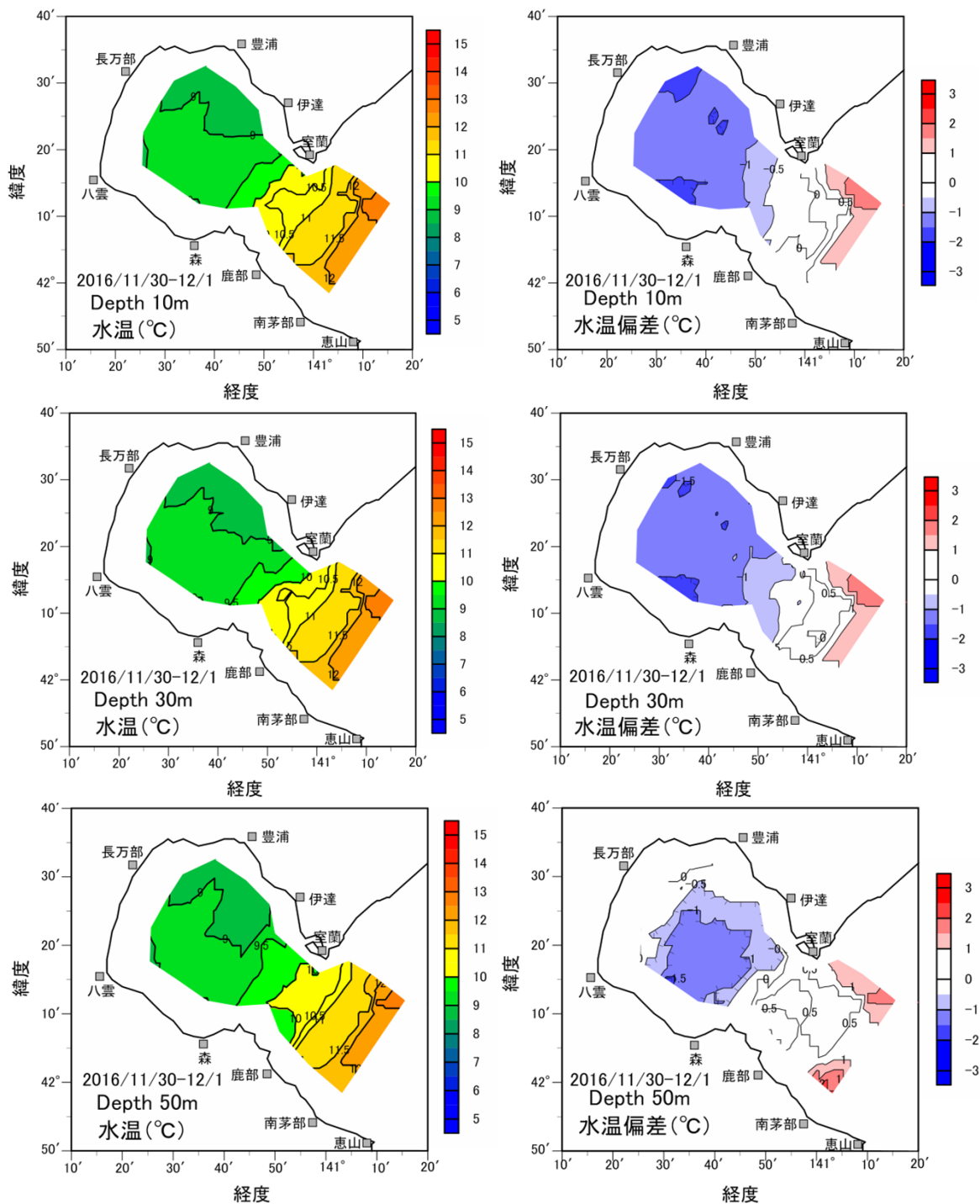


図1 噴火湾およびその周辺海域における(左)水温, (右)水温偏差の水平分布

噴火湾における水塊の占有率を図2に示します。津軽暖流水の湾内占有率は約92%であり、湾内流入量は平年よりも若干多くなっています。

噴火湾底層の溶存酸素量は全域5.5ml/L以上で、貧酸素水塊(指標:溶存酸素量3ml/l以下)の形成はみられません(図3)。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。湾内の流れは弱く、全体的に時計回りの流れになっています。一方湾外では、比較的強い反時計回りの循環がみられます。

次回の調査は来年2月を予定しています。

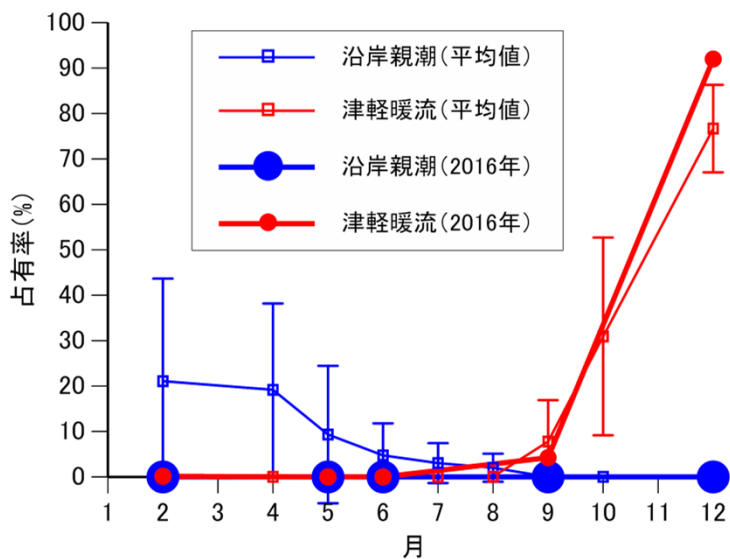


図2 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

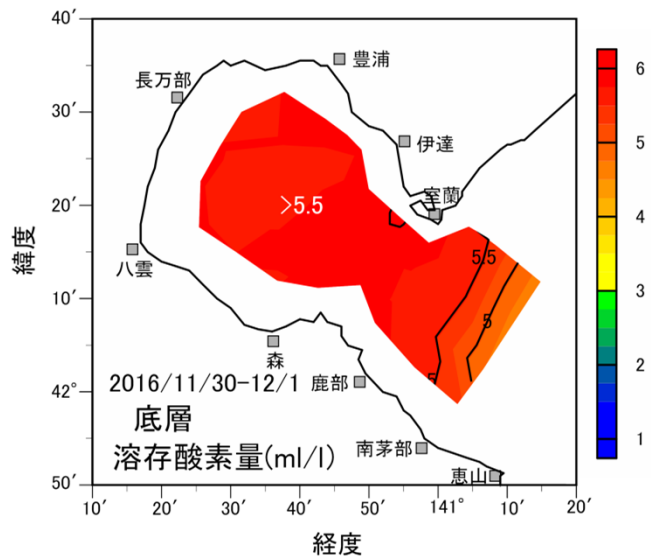


図3 底層の溶存酸素量

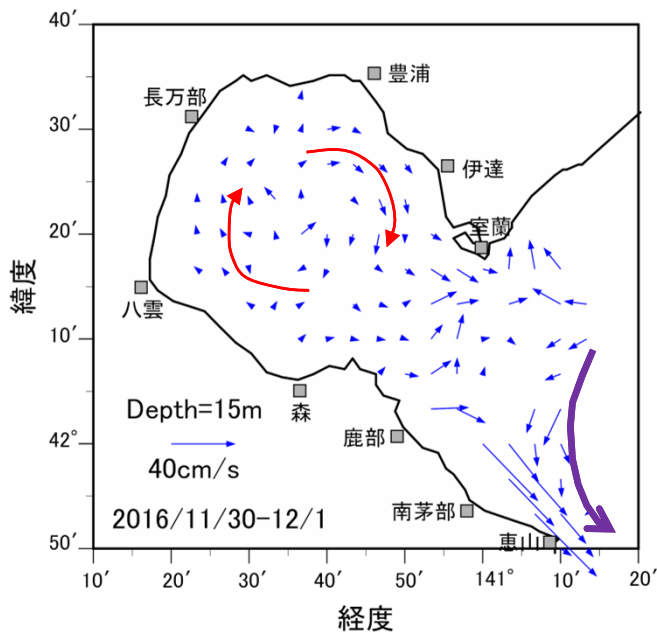


図4 流速ベクトルの水平分布